

葦

大阪発達総合療育センター機関紙
第28号 2018年冬



社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

INDEX

年頭挨拶(梶浦一郎)・特集に寄せて(川端秀彦)	1P
手術室のお仕事(島津優子)・DVD「風よ吹け、未来はここに!」公開上映会の報告(船戸正久)	2P
「げんきいっぱい・たのしさいっぱい・えがおいっぱい」地域と共に(三好愛恵)・ 2017年度近代ボパース概念小児領域基礎講習会報告・ポッチャ国際大会「バンコク・ワールドオープン」について	3P
イベントトピックス・職員研修実施状況・寄付金と寄付物品	4P

■年頭挨拶

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長
梶浦 一郎



新年明けましておめでとうございます。
毎年のことですが、お正月というのは楽しいもので、特に今年は元旦より快晴の日が続き、温かいお正月となりました。

さて、平成30年の年頭にあって一言挨拶を申し上げます。

当センターは、重心施設として常に先頭を走ってきた施設だと思います。

昨年度は、人件費中心に経費の見直しも行き、法人の財政状況には回復の兆しが見られます。まだまだ課題もありますが、職員の皆様にはこれからもその事に誇りを持って業務に従事して頂きたいと思っております。

一方、世間に目を向けますと、自動車メーカー等における不正の問題や、新幹線での重大インシデントの発生等、安全を脅かす問題が相次いで発生しました。

当センターにおいても、引き続き安全で質の高いサービスの提供を行うとともに、今年も皆様の尚一層のご健闘をお願いいたします。

■特集に寄せて

南大阪小児リハビリテーション病院 院長
川端 秀彦



新年明けましておめでとうございます。2018年の初春を迎え皆様方にはますますご健勝のことと存じあげます。今年2月に平昌で冬期オリンピック・パラリンピックが開催されます。そして2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックと、我が国で開催される大きな国際大会が続きます。パラリンピックの競技のひとつにポッチャがあります。ポッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツです。「ジャックボール」と呼ばれる白いボールにか向って、赤と青それぞれ6個のボールを投げる、転がすなどして、どれだけジャックボールに近づけられるかを競う競技です。そのポッチャのワールドオープンが昨年10月にバンコクで開催されたのですが、そこに当センターの利用者の中村拓海さんが参加されました。その時の勇姿を本号の葦の特集で見ることができます。東京での活躍が楽しみです。

翻ってセンター内に目をむけますと昨年は電子カルテが本格的に稼働した年でもありました。大きなトラブルもなく紙カルテからスムーズに移行できたように思います。今後は電子カルテを生かした新しいアイデアでサービスの向上、経営の効率化をめざしていく必要があるでしょう。手術治療もQOL改善に役立つものとして積極的に行っていきたいと思っております。ひとつの手術の回りには多様な職種の方々の人たちのサポートが隠れていますが、主役は手術室です。看護の視点から書かれた文章が本号には掲載されていますので、そこから手術の一端が伺えるかもしれません。分園報告、公開上映会報告、近代ボパース概念小児領域講習会報告とともにご一読下さい。

最後になりましたが、2018年が皆様にすばらしい一年となりますよう心から祈念致します。



特集 手術室のお仕事

看護部 島津 優子

現在の手術室は、川端先生がいらしてから火曜日と水曜日が手術日になり火曜日は川端先生の手術(主には手足の先天奇形)、水曜日は今まで通りの脳性麻痺児の筋肉や骨切りの手術が行われています。手術当日は2名の手術室専属看護師と2階病棟あるいは外来からそれぞれの曜日に1名の応援を受け3名で運営しています。

手術を受ける児が安全に無事手術を終えて病棟に帰ること。それが私たち手術室看護師の役割であると考えています。手術室の業務内容には①患児やそのご家族に関すること ②手術の為の必要な準備 ③手術当日の業務の3点があります。

患者家族に関することは、安全な手術の為の情報収集を行うことと、患児とご家族の手術に対する不安軽減です。その為に手術前日には手術室ツアーを行って、手術室の雰囲気を感じてもらい、また麻酔導入に使うマスクのサイズや匂い、頭にかぶるキャップの色を児と共に決めます。そして手術当日の朝は状態確認を含め居室まで様子を伺いに訪問し、少しでも不安の軽減を図っています。

手術の為の必要な準備は、手術前日までに必要物品の補充や滅菌物の期限切れのチェック等を行っておき、前日には手術を安全に清潔に行う為の環境の整備、医療器械の配置、使用する器械の滅菌、麻酔や輸液に必要な物品の準備を行います。

手術当日の業務は、直接介助と間接介助になります。テレビドラマ等で見かける「メス」「クーパー」と医師が



言えばさっと手渡す人、これは直接介助を行う器械出し看護師です。額に汗をかいた医師が「汗っ!」と言うと拭く人、これは間接介助の外回りの看護師ですが汗を拭くようなことはあまりありません。器械出し看護師は手洗いをし清潔となり直接手術の介助を行います。外回り看護師は手術を外から、回りから、幅広くサポートします。手術を受ける児の手術に必要な処置、手術進行に応じた必要物品の準備、麻酔の介助、患児の状態の観察、手術の記録、コストチェック、環境の整備など多くの業務があります。直接介助の看護師は長時間緊張状態が続いたり、立ちっぱなしなことが多く肉体的にも精神的にも疲労が強い業務です。また間接介助看護師は幅広い視野が必要で様々なトラブルや状況変化に対応できる知識や技術が必要です。

緊張状態が続く手術室ですが無事手術が終了し児が居室へ帰っていくと皆ホットします。また、手術が増え筋肉や関節、腱の名称を確認したり働き等を学ぶ場にもなり、興味深く仕事をさせていただいています。これからも安全に手術が行えるようスタッフや関係部署と協力していきます。

DVD「風よ吹け、未来はここに!」公開上映会の報告

副センター長 船戸 正久



平成29年11月30日(月)にバクバクの会(人工呼吸器をつけた子の親の会)が制作したDVD「風よ吹け、未来はここに!」の公開上映会を行いました。参加者は残念ながら62名(本園:48名、分園:14名)と多くはありませんでしたが、内容は大変素晴らしく非常に感銘を受けました。

障害をもって人工呼吸器をつけて地域で生きる子どもたちが、生き生きと保育園へ通園、普通学校へ通学したり、支援学校で学ぶ姿が紹介されていました。一緒に遊び、学び、手伝う友達の姿も大変素晴らしかったです。

職員からは「人工呼吸器と共に生きる子どもたちに力をもらった」「子どもたちが生き生きと地域で暮らしている姿、多くの人たちの心強い取組みが素晴らしいと思った」「より多くのご家族にDVDを見ていただきたいと思う」、また利用者ご家族からは、「DVDのことはインターネットで知っていたので、今回案内をいただいて有り難かった」という感想もありました。

「げんきいっぱい・たのしさいっぱい・えがおいっぱい」 地域と共に

あさしお園 科長補佐 三好 愛恵



近年、身体運動機能障がいの程度には因らず、概ね2歳から地域保育所・デイサービス・幼稚園等に在籍される傾向にあります。また、乳児期の急性期医療から家庭生活への移行を支えるために、訪問医療サービスを早期から受けておられる方も多くみられます。このような障がいのある子どものライフスタイルの変化を強く感じる昨今、通園事業の在り方を柔軟に変化させる必要性を感じています。

保育では、年齢に合わせ、人と関わる楽しさを覚え、笑顔や興味を広げ、心豊かな育ちを目指しています。遊びを通し、保護者が子育ての悩みや不安をスタッフと共有し、情報提供を行ううえで、子どもの育ち、保護者への育児支援、地域で過ごすまでの支援を行うためには、母子通園が大切な役割を担っていると感じています。

「行事」は、その時々の子どもの発達を確認し、親子のふれあいを促すのがねらいです。また、社会性を育てる機会ともなり、園内の人間関係や発想からでは得られない広がり求め、地域の方々にお力を借りて開催しています。「地元保育所との交流保育」、「学生ボランティアさんの起用」、「卒園児のご家族様に体験談を聞かせて頂く会」、毎年「和太鼓でこども祭りを活気づけて下さる卒園児のご家族」、20年以上続いている「地元の人形劇サークルの公演」など、他にも数多くの地域の方々に支えて頂き療育を展開出来ていることに日々感謝しています。障がいのある子どもと家族が地域で楽しく生活するために、私たち支援者が広い視野をもつことの意味を感じさせていただけると大切な機会となっています。



2017年度近代ボバース概念 小児領域基礎講習会報告

リハビリテーション部 エキスパート理学療法士 日浦 伸祐



2017年10月2日(月)～11月24日(金)まで当センターにて標記の講習会が紀伊顧問をコースリーダーとして開催されました。

受講生、26名(PT17名、OT8名、ST1名)で北は北海道から南は奄美大島まで全国からボバース概念の日本での発祥の地である当センターに参集し、8週間の研鑽を行いました。

センターを利用されている方々に協力いただき、子どもたちの可能性を探求していくというボバース概念の本質を受講生も実感でき、それぞれの地域に帰っても今度は各自が実践してもらえることを期待しています。また、講習会運営にあたり、センターが一体となり協力頂けたこともセンターの使命を伝えることをできた機会であったと考えます。

ボッチャ国際大会 「バンコク・ワールドオープン」について

リハビリテーション部 副主任PT 井上 伸

当センター利用者の中村拓海選手(19)が、タイで開かれたボッチャの大会「バンコク・ワールドオープン」に参加されました。

今大会の団体戦では、2016年リオ大会、金メダルのタイを準決勝でやぶり、さらに決勝では、強豪の韓国に勝利し、見事金メダルを獲得しました。中村選手は、スタメンで出場し、ジャックボールへの正確なアプローチなど大舞台での活躍を見せてくれました。2020年の東京パラリンピックに向けて今後も活躍が期待されます。皆さま、今後とも応援よろしくお願ひします。



イベントトピックス

ザ・リッツカールトン大阪 来院

ザ・リッツカールトン大阪からサンタさんとリオンくんがやってきました。
美味しいケーキも頂きまして、とても楽しいクリスマスとなりました。



職員研修実施状況 H29年10月~H29年12月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
平成29年10月5日(木) 17:40~18:40	感染管理委員会	感染管理対策研修 「ノロウイルスとインフルエンザについて」	大阪府済生会泉尾病院 感染管理認定看護師 田中ちよ氏	112名	5階ホール
平成29年10月27日(金) 17:40~18:40	リハ部・看護部	低緊張児の基本動作介助 起き上がり介助のポイント	南智子(看護師)、藤岡浩史(PT)、 多田澄(OT)	40名	PT室
平成29年10月30日(月) 17:40~18:40	教育研修部	「風よ吹け!未来はここに!! 人工呼吸器を つけて地域で生きる~ともに生きる力を育もう」	バクバクの会制作	62名	5階ホール
平成29年11月8日(水) 17:40~18:40	教育研修部	「人工知能により医療や療育 (リハビリテーションを含む)はどう変わるのか?」	岐阜大学名誉教授 兵庫医科大学客員教授 高橋優三氏	66名	5階ホール
平成29年11月18日(土) 9:00~17:00	運営局・ 教育研修部	「主任フォローアップ研修」	株式会社インソース 佐藤浩司氏	16名	5階ホール
平成29年11月21日(火) 17:40~18:40	教育研修部	「国際パースインストラクター活動について」	リハビリテーション部 日浦伸祐PT、木野本誠PT	74名	5階ホール
平成29年11月24日(金) 17:40~18:40	リハ部・看護部	介助の際に緊張を高めてしまう子どもへの 着替えの援助	泉愛(看護師)、野口陽介(介護 福祉士)、植野清香(OT)	40名	PT室
平成29年11月29日(水) 17:40~18:40	情報セキュリティ委員会 教育研修部	個人情報保護研修 「情報セキュリティ対策講習会」	富士ゼロックス大阪株式会社 シニアアドバイザー 徳山茂氏	70名	5階ホール
平成29年12月4日(月) 17:40~18:40	セラピスト委員会 教育研修部	医療安全研修 「医療における危険予知トレーニング」	元大阪警察病院副看護部長 志摩久美子氏	79名	5階ホール
平成29年12月23日(土) 9:00~17:00	運営局・ 教育研修部	「管理職研修(3回目)」	株式会社インソース 青木朋博氏	20名	5階ホール
平成29年12月28日(木) 13:30~17:00	教育研修部	院内学会発表 「生活介護の利用を通して社会とつながりを広げる支援について」	療育部なでしこ 吉峰 傑 西尾勇介	206名	5階ホール
		「あさしお園での発達障がい児への支援について」	療育部あさしお園 大西慶子/医療技術部臨床心理 杉原康子		
		「わかば集中リハ入院児に対する視機能評価と視能訓練について」	リハビリテーション部作業療法科 井上美和・辻 薫		
		「臨床工学技士の業務について」	医療技術部臨床工学科 西岡孝洋		
		「居宅介護事業所における重症心身障害児の受け入れの問題と課題について ~アンケート調査による医療的ケアの現状及び受け入れの調査報告~」	療育部訪問介護ステーション 宮崎俊也		
		「NMCS児の在宅に向けての多職種協働の取り組み」	看護部・療育部フェニックス4階病棟 鎌田裕子・末吉友美		
		医療安全研修会「インシデント報告」	看護部(医療安全担当)部長 香月みよ子		
		講演会「職員全員がもっと幸せになるために…」	運営局長 梶浦 正		

感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

「寄付金と寄附物品」

一般寄付金

月	寄付者(敬称略)
10月分	井上 明生 10月分案基金 3件
11月分	フェニックス 家族の会 匿名2件
12月分	株式会社万代 日進交通株式会社 12月分案基金 1件

寄附物品

月	寄付者(敬称略)	物品名
10月分	谷間 多江子	プレーリーくん着ぐるみ
11月分	匿名	おもちゃ(アンパンマン自動販売機)
12月分	古賀 英子	イルミネーション



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・梶浦一郎

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児
〒552-0004 港区夕凧2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524